

秋さけ資源利用配分適正化事業調査

— 抄録 —

黄金崎栄一・小田切譲二・木村 大・鈴木 史紀・伊藤 欣吾

発 表 誌 名

平成4年度秋さけ資源利用配分適正化事業報告書（青森県）

抄 録

1. 追跡放流調査

- ① 青森県西津軽郡深浦町北金ヶ沢地区及び同町横磯地区で10月上旬から12月上旬にかけて、トリブルタグを装着して228尾の標識放流を行った。
- ② 再捕された69尾（沿岸域56尾、河川12尾）のうち県内の再捕率は24.6%秋田県で60.9%、山形県で11.6%、新潟県で2.9%で合計の再捕率は30.3%であった。

2. 大量放流調査

- ① 10月には青森県深浦町北金ヶ沢で91尾、11月には同海域及び横磯地区でそれぞれ107尾・117尾合計315尾の標識放流をおこなった。
- ② 再捕された69尾（沿岸域53尾、河川19尾）のうち県内の再捕率は27.8%、秋田県で49.3%、山形県で14.5%新潟県で4.3%で合計の再捕率は21.8%であった。

3. 日本海重点調査全体について

この調査は、上記2つの調査からなっているが、追跡調査での再放流はなく、大量放流の個体1尾だけが秋田県で再放流された。

今年度の日本海の漁獲量は例年になく不漁で、調査網に十分放流するだけのさけが入網しなかったこともあって、放流計画を達成する事はできなかった。

再捕結果は、追跡・大量合わせて544尾の放流に対し138尾、25.3%の再捕率であった。

再捕報告は全体の70%が県外からのものであり、今期の調査海域の来遊群は県外産のものがかなり含まれていたものと考えられる。

4. 刺 網 調 査

青森県北津軽郡小泊村沖3・6・9マイルで延べ14回の操業を行った結果1尾のさけを漁獲し放流した。この1尾については再捕報告はなかった。

5. 延 縄 調 査

青森県上北郡六ヶ所村泊沖3・6・9マイルで延べ20回の操業を行ったがさけの漁獲はなく、放流できなかった。

6. 沖合調査全体について

今回、沖合調査として日本海側で刺網、太平洋側で延縄の調査を行った。刺網については、1尾の放流実績があるが、10月上旬からの調査では水温が高過ぎ漁獲は期待できないと考えられる。

また、調査海域については、同時期スルメイカー本釣が調査海域の沖（距岸20～30マイル）で操業しており、その海域でかなりのさけの群れを観察しているとの話を耳にする。これらの事を考える

と、さらに沖合の調査をする必要があるのではないかと考えられる。

延縄については、調査海域でも時期的に延縄によりさけの漁獲は可能であるが、特定の調査ポイントでの漁獲の可能性を非常に低いと考えられる。理由としては延縄によるさけ漁は、跳ねがなければ漁獲できない事、青森県太平洋沖で延縄ができる期間はその年により長短がある事等、調査時期・調査点を固定すれば放流数がかなり制限されるものと考えられる。

7. 調査全体について

本調査から、本県日本海沿岸に回遊するさけは、本県産と他県産の混成群と考えられるが、その量的推定は現段階ではむずかしいものと思われる。

今後さらに検討を加えながら定量的解析に必要な資料を蓄積していく必要がある。